

# 女性の姿勢と体型美に関する意識

## The Awareness of Female Posture and Body Beauty

(キーワード：姿勢，肥満度，体型美，感性評価，評価グリッド法)

(Keywords: Posture, BMI, Body Beauty, Kansei Evaluation, Evaluation Grid Method)

山口遊子 (スタイルプレゼンター)，菅原徹 (早稲田大学人間総合研究センター)

宮崎正己 (早稲田大学人間科学学術院)，岸本泰蔵，上家倫子，黒野寛馬 (ワコール人間科学研究所)

### 1. はじめに

女性は自信の体型に敏感である。それは、体型が他人からの印象を大きく左右すると考えているにからに他ならない。その場合、多くの女性はふくよかな体型よりも痩せた体型を好み、バスト・ウエスト・ヒップのメリハリのあるボディラインに魅力を感じる傾向がある。しかしながら、ファッションモデルの過度な痩身が、若い女性の行き過ぎたダイエットを増長すると、世界的な問題になるように、昨今の女性の体型に対する意識は敏感すぎるとも言えよう。

日本女性に関しては、WHO の統計データによるとアメリカの 34.9% に対して日本では 3% しか肥満に分類されず、政府のヘルスデータでは、20 代の日本人女性の 22% が標準以下の体重、または栄養不良に分類されると報告している。

しかしながら、人が体型から受ける印象は、そのような肉付きだけでなく、姿勢という身体の「あり方」があって形成されるフォルムにより感じ取られるものであり、体型美に「姿勢」の要素は不可欠であると考えられる。

そこで、女性の体型を構成する要素である、肥満度 (Body Mass Index : BMI) と、日本の下着メーカーワコールが 1991 年に発表した「ゴールデンカノン」からバスト、ウエスト、ヒップのメリハリ度に姿勢を加えて、どのような体型と姿勢からなるフォルムが人々に好印象を与えるかを調査した。

第 I 実験では、姿勢が直立タイプで 5 段階の BMI が異なる (肥満 : 25.0 ~、やや肥満 : 22.8 ~ 24.9、普通 20.7 ~ 22.7、やや痩せ 18.5 ~ 20.7、痩せ ~ 18.4) 5 名の女性が、体型ラインの明確に見える着衣で「直立タイプ (ニュートラル)」、「直立脱力タイプ」、「後傾タイプ」、「前傾タイプ」、「直立腰部前傾タイプ」の 6 タイプの姿勢を再現した 30 種類の体型と姿勢に、普通の BMI をメリハリ中とし、正面の歪みタイプを除く 5 タイプの姿勢にメリハリ小、大に修正して再現した 10 種類を加えて合計 40 種類の体型画像を作成し、印象評価を試みた。

第 II 実験では、体型ラインを隠せる衣服を着用し「直立タイプ」、「直立脱力タイプ」は 5 タイプの BMI 全てを、「後傾タイプ」、「前傾タイプ」、「直立腰部前傾タイプ」は、肥満、普通、痩せの 3 タイプの合計 19 種類の女性の体型画像を作成し、再度印象評価を試みた。その結果、体型ラインが明確であるなしにかかわらず姿勢の要素がポジティブな魅力度に関係してい

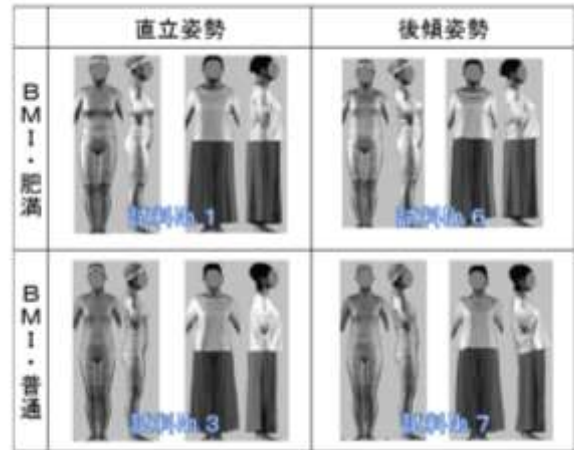


図 1. 女性の体型画像試料の例

ることがわかった[1][2][3][4]。

しかしながら、実際には若い女性は姿勢を重要視するよりも痩身願望が強いように思われる。そこで実験 II のデータを用い、若年層である 20 代 53 名と中高年層である 50 代と 60 代を合計した 52 名のデータをそれぞれ主成分分析し、比較を試みた。その結果、平面図においては大差が認められなかったものの、プロフィール曲線で見られる差異から言葉の捉え方の違い、ないしは体型や姿勢に対して世代間で意識の違いがあるのではないかと推察し、評価グリッド法を用いて各年代の認知構造を明らかにすることを目的にインタビュー調査を行った。

### 2. 調査方法

被験者は、第 I 実験と第 II 実験の両方に回答いただいた方の中から、20 代 5 名、50 代 3 名、60 代 2 名の合計 10 名。評価試料は体型を隠せる着衣状態の実験 II で用いた試料を採用した

まず 19 の体型画像試料を提示し、「好ましい」と思うものから「好ましくない」と思う順に並べてもらう。次に、それらを「好ましい」「やや好ましい」「どちらともいえない」「やや好ましくない」「好ましくない」の 5 段階に分けた場合「好ましい」と「好ましくない」試料だけを抜き出す。それらの試料を見せながら、順位付けを行った際に何を基準にしたかを尋ねた。その評価基準となるキーワードから、ラダーダウンは「この部位を見て好ましいと判断しましたか?」「どのような状態だと好ましいですか?」と、着目した部位や状態を、ラダーア

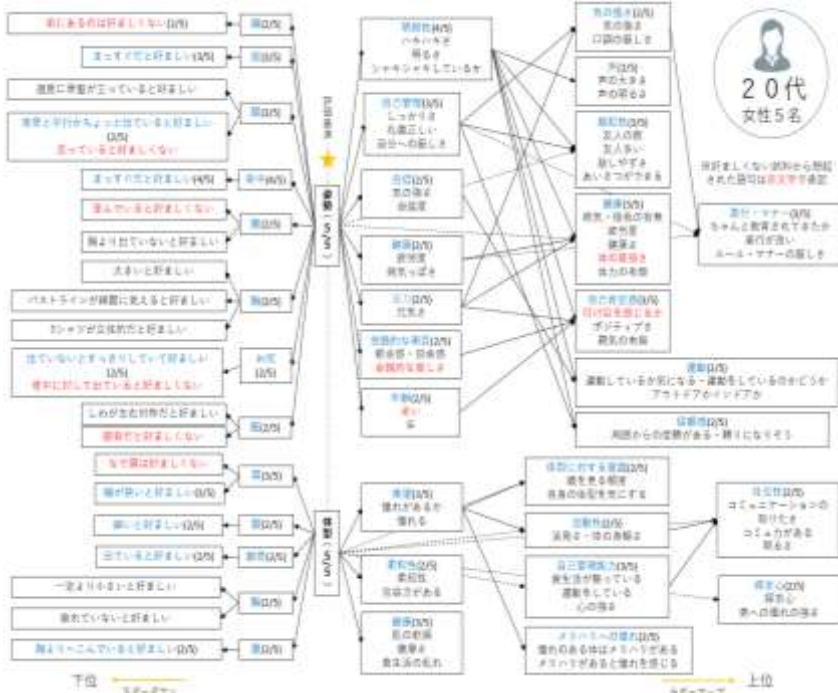


図2. 評価構造図 (20代女性)

ップは、選んだ試料の「○○のような人を見るとどのように感じますか?」と、その人から受ける印象や抱くイメージを明らかにしていった。

それらのインタビュー結果を基に、個別の評価構造図を作成した後、20代の若年層と50・60代の中老年層で、それぞれ統合した評価構造図を作成した(図2, 図3)。

### 3. 結果と考察

20代の5名のうち3名以上が「好ましい」に選んだのは「普通の直立タイプ」「やや痩せの直立タイプ」「痩せの直立タイプ」「普通の直立腹部前傾タイプ」であった。50・60代のうち3名以上が「好ましい」に選んだのは「肥満の直立タイプ」「普通の直立タイプ」「やや痩せの直立タイプ」「痩せの直立タイプ」であった。20代で全員が「好ましい」に選んだのは「やや痩せの直立タイプ」のみであったのに対して、50・60代は加えて「肥満の直立タイプ」「普通の直立タイプ」も全員が「好ましい」と回答している。このことから中高齢のほうが姿勢が直立であれば肉付きに対しては寛容であると思われる。「好ましくない」に関しては、20代の3名以上が選んだのは「やや肥満の直立脱力タイプ」「普通の直立脱力タイプ」「やや痩せの直立脱力タイプ」「痩せの直立脱力タイプ」と全て「直立脱力タイプ」であった。それに対して50・60代は「肥満の脱力タイプ」「普通の直立脱力タイプ」「やや痩せの直立脱力タイプ」「痩せの直立脱力タイプ」の4つの「脱力タイプ」に加え「普通の後傾タイプ」「痩せの後

傾タイプ」「普通の前傾タイプ」といった傾いた姿勢も多く挙げられた。

選別基準となったキーワードは、全ての20代が「姿勢」と「体型」を挙げたのに対し、全ての50・60代が挙げたのは「姿勢」のみで「体型」を挙げたのは2名にとどまった。また20代が細い体型を好ましいという観点で「体型」から選別を行ったのに対し、50代の1名は痩せすぎの体型を「好ましくない」に選別する観点で「体型」を挙げたと述べている。このことから、若年層のほうが中高年よりも細い体型にこだわりが強いことがわかり、中高年層は体型よりも姿勢を重視する傾向があるといえる。

「姿勢」のラダーダウンを比較すると、20代が着目した部位は「顔」「首」「腰」「背中」「腹」「胸」「お尻」「服」に対して、50, 60代が着目したのは「背筋」, 「首」「服」「肩」「頭から足」であった、50・60代が姿勢をフォルム全体から評価しているのに対して、20代は細部を見ており、

前者が背面のラインを重視して評価しているのに対して、20代は「顔」「腹」「胸」といった前面からも評価していることがわかる。また、20代が胸を見る際に「しわが対象だと好ましい」「猫背だと好ましくない」といった服の中の身体のフォルムを姿勢に関連づけているのに対して、50代と60代は裾の水平具合から身体の傾きで姿勢を評価している。そのため評価試料を選別する際に「好ましくない」に前傾や後傾姿勢が多く挙げられたことがわかる。

「体型」のラダーダウンを比較すると、20代の着目点が「腰」

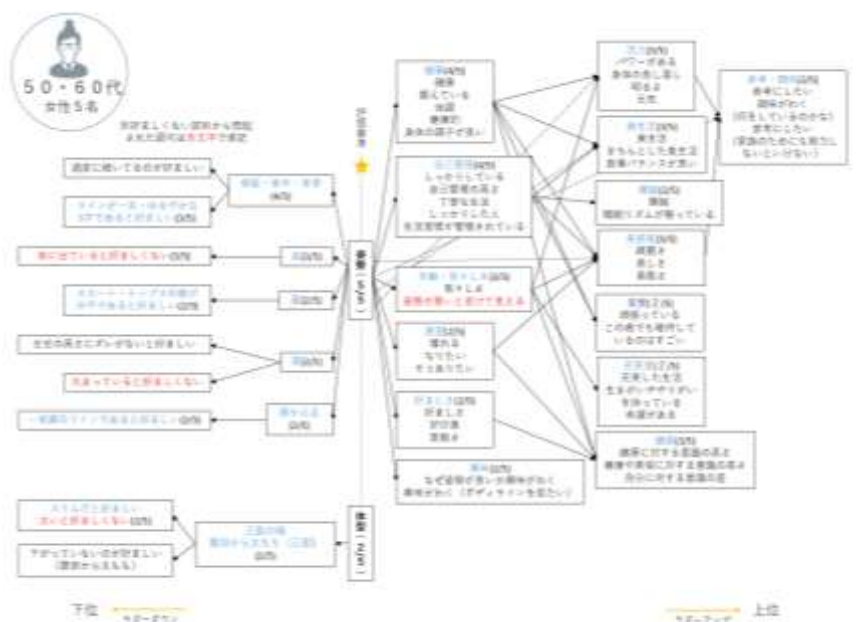


図3. 評価構造図 (50・60代女性)

「鎖骨」「胸」「腹」の4カ所であったのに対して、50・60代は「体型の幅」のみであった。着目点の多さや、サイズに関する回答が多かったことから若年層は細い体型が好ましいと考える傾向があり、中高年層はあまり体型を重視して好ましさの判断をしないとされる。

「姿勢」のラダーアップを比較すると、発せられた言葉をカテゴリーで分けると、20代は「明朗性」「自己管理」「自信」「健康」「活力」「金銭関連」「年齢」の7項目となり、50・60代は「健康」「自己管理」「年齢」「羨望」「好ましさ」「興味」の6項目となった。「自己管理」に関して、50・60代は生活態度をイメージしているものが多いが、20代はきっちりとした性格をイメージして発せられた言葉となっている。この他にも20代は「明朗性」「自信」といった性格や内面を姿勢から感じ取り、それらが友人の数や周囲からの信頼など、人間関係に関連づけられている。それに対して50・60代は内面に関連づけるものはない。一方で「羨望」「好ましさ」「興味」が最初のカテゴリーで挙がり「賞賛」や「参考」というカテゴリーに繋がることから、年齢と共に美しい姿勢を維持することが難しいと感じていることが推察される。「健康」に関しては、20代が姿勢からその時の体調を感じ取ることにに対して、50・60代は、それに加え基本的なその人の健康状態を映し出すものとして姿勢を捉えている。また、50・60代は「健康」から健康や食生活、美容に対する意識の高さへと関連づけていることから、若年層よりも中高年層は健康に対する意識の高さがわかる。「年齢」に関しては、20代の「自己肯定感」に対し、50・60代は若々しさから「充実した生活」や「やりがい」などを感じ取っているのも中高年層の特徴と思われる。

「体型」のラダーアップに関しては50・60代は共通した連想はなく、20代は「羨望」「柔和性」「健康」の3項目であった。50・60代は姿勢から「自己管理」を想起するのにに対して、20代は体型からも「自己管理」を想起している。また「自己管理」から「社交性」といった人との繋がりにいきつくのも「姿勢」から人間関係に関連づけられることと同様に20代の特徴のように思われる。

#### 4. まとめ

若年層は中高年層共に他者の印象を評価する上で、姿勢を重要視している。一方で、20代は体型も重要視し、とりわけ細い体型への願望が強い。中高年層にとっては加齢とともに姿勢や体型の維持が容易ではないと感じており、体型の変化に対しては許容していくが、姿勢は健康にも関連して重要視する傾向が高い。

また、若年層は姿勢や体型が人間関係に関連する言葉に繋がり、中高年層は姿勢から健康や生活の充実に関連することからも、好ましい姿勢や体型はその年代が属する社会や環境において自身がありたい姿を映し出しているように思う。

好ましくないとされた直立脱力姿勢は、スマホやパソコンを多用する現代において、特に若年層にとっても懸念すべき問題のひとつである。年齢を重ねると体型に関しては許容されてい

くが、姿勢が印象に与える影響は変わらず大きいということを考えれば、若い頃から姿勢を一層意識すべきであろう。

今後は、痩身願望が強い若い女性に姿勢の重要性を喚起するとともに、胸や腰に働きかけ、好ましい姿勢を手助けするような下着が開発されることを期待したい。

#### 5. 謝辞

本研究に際して、被験者を快く引き受けくださった皆さま、実験・分析の協力をいただきました東洋大学に関根直弥氏、早稲田大学の小野瀬立真氏に心より感謝申し上げます。

#### 参考文献

- [1]菅原徹, 山口遊子, 宮崎正己, 岸本泰蔵, 上家倫子, 黒野寛馬: 女性の体型と美的印象の関係分析, 第19回日本感性工学会大会, E82, 2017.
- [2]成松洋子: “ゴールデンカノン～プロポーション7～” にみるボディイメージ, 美術解剖学雑誌, Vol. 5/Vol. 6, pp. 53-60, 2000.
- [3]岸本泰蔵: 現代女性の形態美, バイオメカニズム学会誌, Vol. 26, No. 3, pp. 122-126, 2002.
- [4]今井浩: 美しく感じる身体形状条件—ゴールデンカノンの導出と活用について—, 計測と制御, Vol. 36, No. 2, pp. 110-111, 1997.